

景況調査

報告書 NO. 60

平成25年 7月～9月 実績
平成25年 10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成25年度第2四半期(H25. 7～9月)景況調査

1. 調査時点 平成25年9月11日～25日

2. 調査対象
 (1)対象地区 蒲郡市内
 (2)対象(回答)企業 111[104企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	45 (3)	9 (2)	14 (1)	27	10 (1)	6	111 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△18.9、前期実績(4～6月・△16.5と比較すると2.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比は△16.2、前期実績(4～6月・△10.5)と比較すると5.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△13.5、前期実績(4～6月△5.3)と比較すると8.2ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△23.4、前期実績(4～6月・△20.0)と比較すると3.4ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H25.10～12月)見通し**については△6.3、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △16.2)と比較すると9.9ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち**食料品**は、海外製品との競争のなか原材料価格の上昇を訴える声が多い。織物は、ジャガード・インテリア関連は厳しい状況。寝装関係は好調だった春夏商材が終わり、ひと段落。**漁網・ロープ**は、ロープ関連の復興需要は一段落し従来のペース。建築関係は五輪も決まり上昇傾向。土木は動きあり。自動車関係・スポーツ関係は例年並み。**鉄工**のうち、工作機械関係は国内生産は一進一退。自動車部品関連は夏以降自動車生産は一服状態。原価低減活動が厳しさを増す。**化学・プラスチック**のうち、化学は円安で収益改善。プラスチックは原油高・円安が続いているため採算が悪化。

「**建設業**」は、公共工事に多少動きりも、消費増税前の住宅等の駆け込み需要もさほど伸びず。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、<産業資材関連>円安で原材料価格高止まり。売値への転嫁も進まず。資材は景気回復で量的には増えたが全体を牽引する程ではない。<寝装関連> 猛暑で関連商品が多少動くも、全体的には低調なままである。<インテリア関連>。秋冬のシーズンインに向け出荷量は増加傾向。消費増税により住宅着工件数増加も、実需はさほどなく衣料関連> 8月中旬より秋冬物に入るが、先物の引き取りは少ない。

「**小売業**」は、消費全体の動きが鈍い。お中元等の進物用は特に動きが鈍かった。**飲食**は、状況にあまり変化はなく、お昼のランチ客は入るが、夜の一般客は少ない。**石油等その他小売**は中東・アフリカ諸国の地政学リスクで原油価格は高騰傾向。米国・中国景気の動向にも注視

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は、7～8月は宿泊者数で前年対比100%を越える施設が多く蒲郡全体で良かった。ただし旅行価格や管内消費額は減少しており売上の伸びは今一つ。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**は、完成車輸出はアウトランダーのプラグインハイブリッドの欧州輸出が始まり堅調。海上コンテナ作業、木材(合板)の輸入は概ね順調。**バス業界関係** 夏季休暇のシーズンで比較的堅調であったが安近短の傾向は変わらず。

設備投資状況は、20事業所(29件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は26事業所(34件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、原材料(燃料)高、競争激化、消費者ニーズの変化の対応が項目別で上位を占めていた。

当地区において 円安の影響で、製造業は生産量として比較的堅調も、原材料高・利幅縮小を懸念する声も多く、景気回復の実感はまだ。消費増税に対して大きな動きは感じられなかった。当所としてもアクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

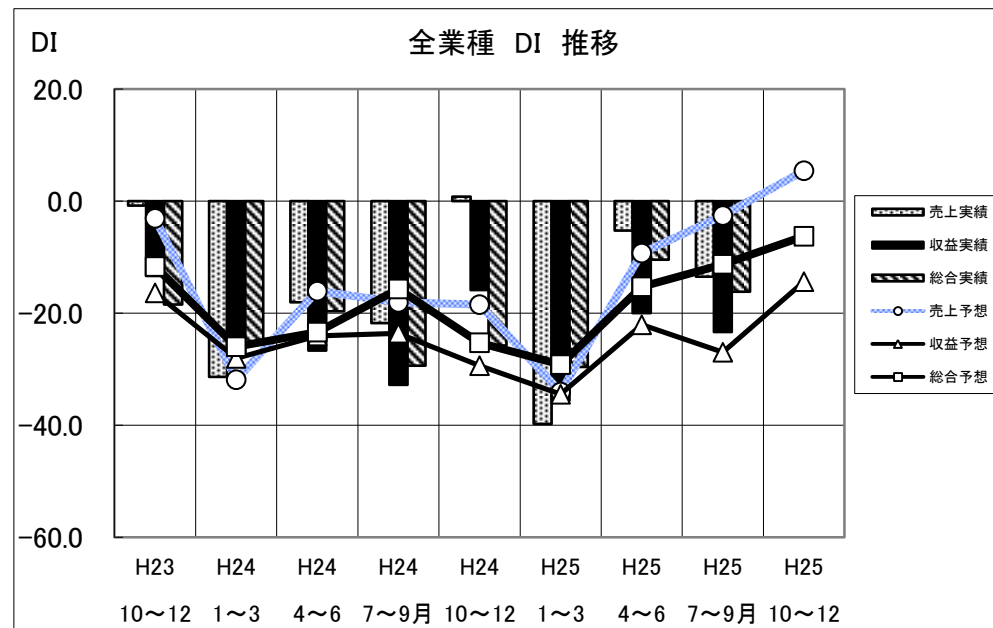
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比	前期比	来期見通し		売上		収益		総合判断		
	平成24年7月～9月に比べて	平成25年4月～6月に比べて	平成25年10月～12月の見通し		前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-18.9	-13.5	5.4	H24. 7～9月実績	-29.4	-21.8	-33.6	-32.8	-32.0	-29.4	-25.3
②製品・商品在庫	-16.2	-14.4	-12.6	H24. 10～12月実績	-31.6	0.8	-35.8	-15.9	-33.3	-25.8	-29.2
③資金繰り	-13.5	-13.5	-9.0	H25. 1～3月実績	-32.2	-39.8	-39.3	-35.6	-31.3	-29.6	-15.3
④採算(収益)	-30.6	-23.4	-14.4	H25. 4～6月実績	-16.5	-5.3	-28.7	-20.0	-16.5	-10.5	-11.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-2.7	-1.8	-0.9	H25. 7～9月実績	-18.9	-13.5	-30.6	-23.4	-18.9	-16.2	-6.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-18.9	-16.2	-6.3								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-0.8	-31.4	-18.1	-21.8	0.8	-39.8	-5.3	-13.5	5.4
収益	-13.4	-27.7	-26.7	-32.8	-15.9	-35.6	-20.0	-23.4	-14.4
総合	-18.5	-25.6	-19.7	-29.4	-25.8	-29.6	-10.5	-16.2	-6.3

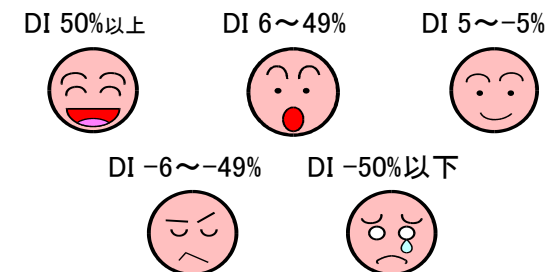
◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加) 従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化) 業況(総合判断):DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は0.0、前期実績4～6月期(22.4)に比して22.4ポイントの下降、収益DI値は△13.3、前期実績4～6月期(△2.1)に比して11.2ポイントの下降、総合判断DI値は△4.5、前期実績4～6月期(8.1)に比して12.6ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向にある。

向こう3カ月の見通し 売上・総合は改善、収益は僅かに悪化の傾向にある。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-8.8	0.0	22.2
②製品・商品在庫	-11.2	-6.6	-6.6
③資金繰り	-4.4	-2.2	-2.2
④採算(収益)	-17.8	-13.3	-2.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	6.7	8.9	8.9
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.7	-4.5	6.6

[食料品]

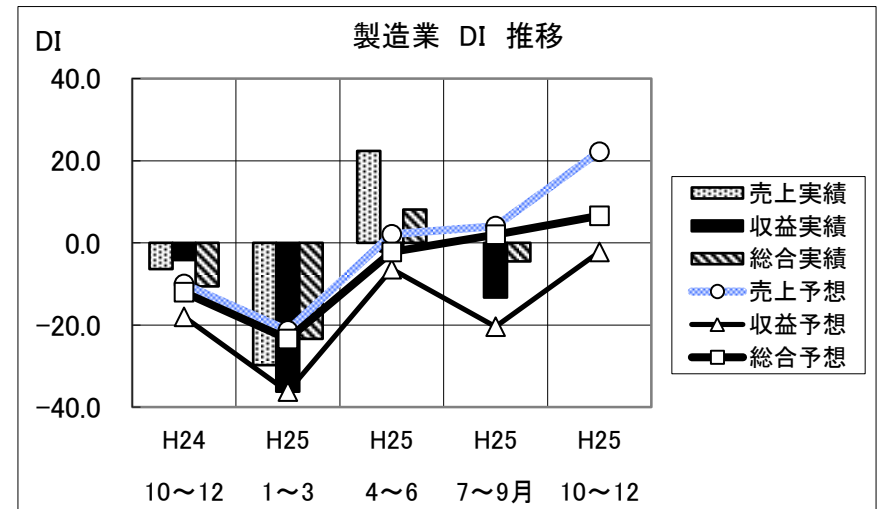
売上げは、前期比ではDI値△50.0%と減少、前年同期比ではDI値△50.0%と改善の傾向。収益でも、前期比DI値0.0%、前年同期比DI値0.0%と横バイだが、原材料価格の上昇を訴える企業が多い。総合判断では前期比DI値は△50.0%と悪化しているが、前年同期比ではDI値25.0%と改善の傾向にある。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期に入るため、売上はDI値25.0%と増加の見通し。収益DI値は50.0%、総合判断DI値は75.0%と改善の見通し。

国内の食品業界は、海外製品との競争にさらされているが、原材料コストの負担感が高まるなど厳しい経営環境下にあって、いかに消費者ニーズを捉えた商品を提供できるかが課題となっている。市内飲食店等と連携して地産食材を活用した商品展開に力を入れている企業も見られ、今

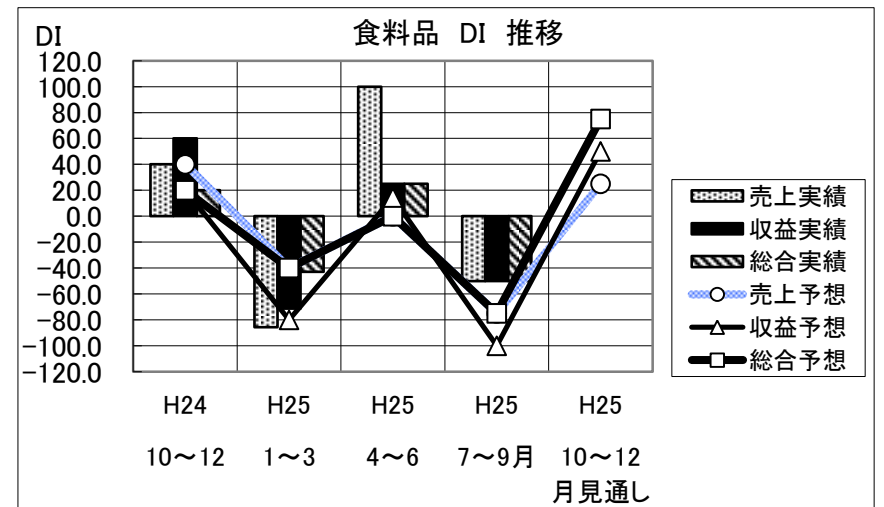
(食料品)性を売りにした商品開発の動きが期待される。(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	-50.0	25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	25.0	-25.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-50.0	50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	25.0	25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	25.0	-50.0	75.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-6.4	-29.8	22.4	0.0	22.2
収益	-4.2	-36.2	-2.1	-13.3	-2.2
総合	-10.6	-23.4	8.1	-4.5	6.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	40.0	-85.7	100.0	-50.0	25.0
収益	60.0	-71.4	25.0	-50.0	50.0
総合	20.0	-42.9	25.0	-50.0	75.0

【織物】

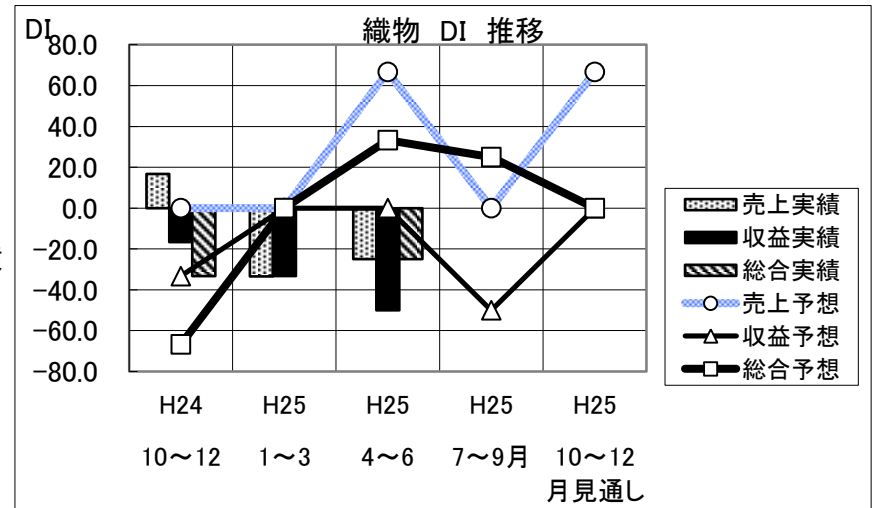
ジャガード・インテリアは変わらず厳しい状況。寝装関係については、春夏商材が終わり、稼働率は落ちたものの、インテリアに代わる主力製品として順調に推移。産業資材は大きな動きはなし。

向こう3カ月の見通し 寝装関係の中心であるガーゼについては、次のシーズン向けに新柄が決まってきており、前年度を上回る受注を期待。産業資材は自動車関連需要に左右されるが横バイの見込みである。この三河産地で綿を栽培し製品化に取り組む「ミカワ・コットン・プロジェクトin蒲郡」への注目も高まっており、周辺製品への波及効果を期待したい。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	66.7
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-33.3	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	16.7	-33.4	-25.0	0.0	66.7
収益	-16.6	-33.3	-50.0	0.0	0.0
総合	-33.3	0.0	-25.0	0.0	0.0

【漁網・ロープ】

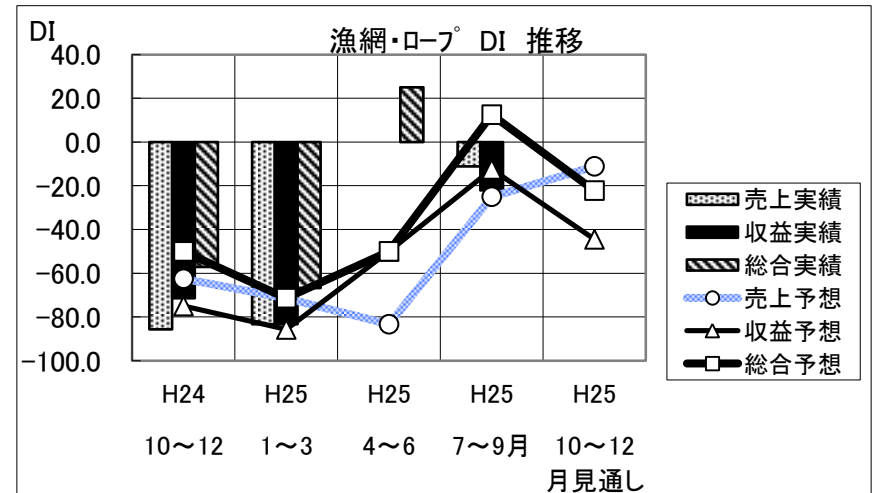
ロープ関連の復興需要は一段落し従来のペース。建築関係は、五輪も決まり上昇傾向。土木は昨年より動きはある。自動車は平年並み。スポーツ例年並みで安定した推移。

向こう3カ月の見込み 建築・土木に動きが出てくる見込み。漁網は引き続き低調に推移(繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-11.1	-11.1
②製品・商品在庫	-33.3	-22.2	-33.3
③資金繰り	-33.3	-11.1	-33.3
④採算(収益)	-77.8	-22.2	-44.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	0.0	11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-44.5	0.0	-22.2



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-85.7	-83.3	0.0	-11.1	-11.1
収益	-71.4	-83.3	0.0	-22.2	-44.5
総合	-57.1	-66.7	25.0	0.0	-22.2

[鉄工]

＜工作機械関係＞ 国内生産の現状は、一進一退の状況である。まだ増産の実感がなく、後半の生産計画がいつ上昇するかを注視している。受注に関しては、機械受注統計によると6月(951億円)7月(929億円)8月(945億円)と順調に回復の兆候も見えて来ている。今後の見通し 国内生産は、受注の増加傾向で生産計画も増加が見込まれる。受注に関しては、今年は各社とも増加傾向を見込んでいる。円安傾向で輸出が増加傾向となり、政府の打ち出す投資減税に多いに期待しているところである。ここに来て国内、輸出とも増加傾向を示している。

＜自動車部品関係＞ 生産に関しては、この夏以降自動車の生産は、一服状態である。この機会をとらえ、親会社の体制は“原価低減活動”が、ここに来て一段と厳しさを増している。今後の見通し 生産に関しては、自動車は減産計画から増産計画に上方修正変更とのニュースがあるが、円安による輸出増と来年の消費税8%前の駆け込み購入を見込み、自動車各社は、上方修正するといいますが、まだ計画表には表れていない。増産とは言え、基本スタイルは、今後とも海外生産の流れである。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機 生産に関しては、自動車(DI 単位:%))

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	26.6	40.0	33.3
②製品・商品在庫	0.0	6.6	6.6
③資金繰り	6.7	13.3	26.7
④採算(収益)	6.7	6.7	26.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	13.3	6.7
⑥貴社の業況(総合判断)	6.6	13.3	26.7

[化学・プラスチック]

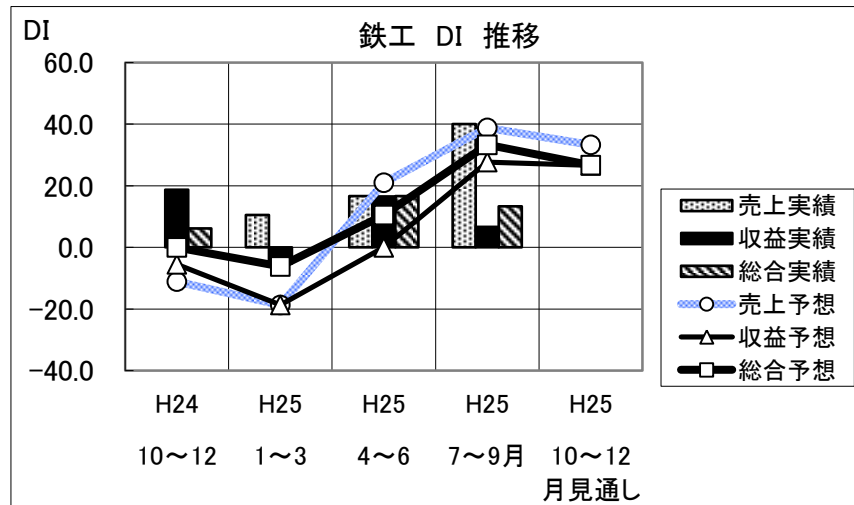
＜化学工業＞ 円安傾向で収益が改善された。向こう3カ月の見通し 円安による原材料価格の高騰が懸念される。

＜プラスチック＞ 原油高・円安が続いているため採算が悪化。生産、売上額ともに減少。向こう3カ月の見通し 引き続き原油高・円安により採算のさらなる悪化が予想される。生産、売上額は今期程度になる見込み。(化学部会)

(化学・プラスチック)

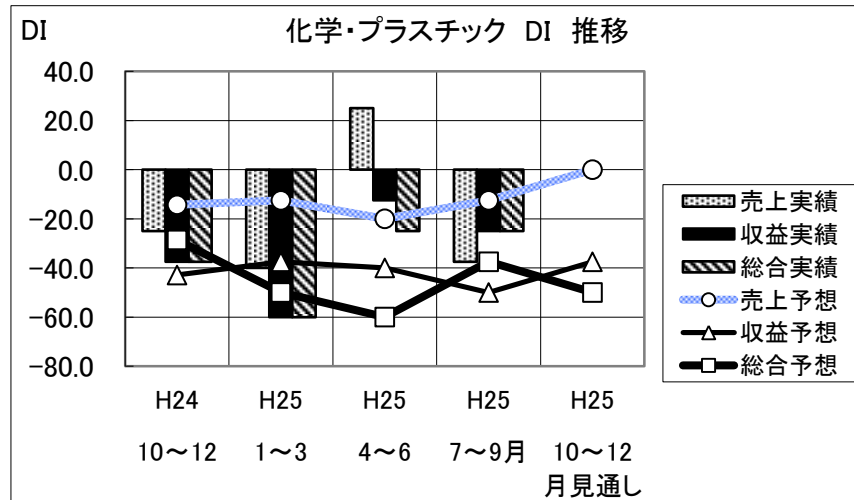
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-37.5	0.0
②製品・商品在庫	-25.0	-25.0	0.0
③資金繰り	-12.5	-12.5	-25.0
④採算(収益)	-12.5	-25.0	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.5	-25.0	-50.0



＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	0.0	10.5	16.7	40.0	33.3
収益	18.7	-5.3	16.6	6.7	26.6
総合	6.2	0.0	16.7	13.3	26.7



＜業況判断DIの推移＞

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-25.0	-40.0	25.0	-37.5	0.0
収益	-37.5	-60.0	-12.5	-25.0	-37.5
総合	-37.5	-60.0	-25.0	-25.0	-50.0

建設業

売上DI値は△22.2、前期実績4～6月期(△22.2)に比して横バイ、収益DI値は△34.4、前期実績4～6月期(△44.4)に比して10ポイントの上昇、総合判断DI値は△11.1、前期実績4～6月期(△11.1)に比して横バイ。公共工事に多少動きもあるが、消費増税前の住宅等の駆け込み需要もさほど伸びず。売上・収益・総合とも水面下の依然として厳しい状況が続く。

向こう3カ月の見通し 原材料価格の値上げ等で収益は圧迫されるが、売上・総合は改善する見込み。政府主導の積極的な施策展開、景気回復に後押しされた公共・民間工事の増加に期待。今後、東北の復興需要、首都圏の東京五輪を中心に公共工事は増加する見込みだが、当地域においても道路・港湾等インフラ整備の着実な進捗を願う。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-22.2	44.5
②製品・商品在庫	-11.1	-11.1	-11.1
③資金繰り	-11.1	-22.2	11.1
④採算(収益)	-22.2	-33.4	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-11.1	11.1

卸売業

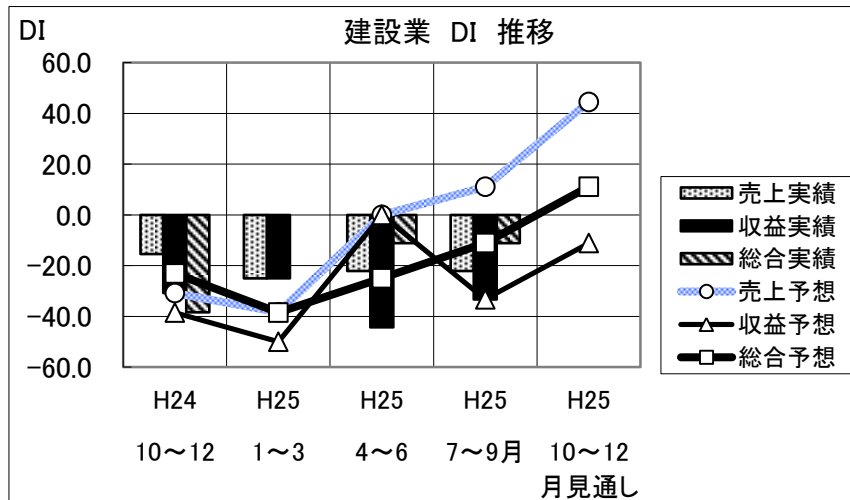
売上DI値は7.2、前期実績4～6月期(△6.3)に比して13.5ポイントの上昇。収益DI値は7.2、前期実績4～6月期(△12.5)に比して19.7ポイントの上昇、総合判断DI値は7.1、前期実績4～6月期(0.0)に比して7.1ポイントの上昇と、売上・収益・総合共に改善傾向である。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期に入り売上はさらに改善傾向も、収益は悪化。総合は横バイとなっている。

卸売業

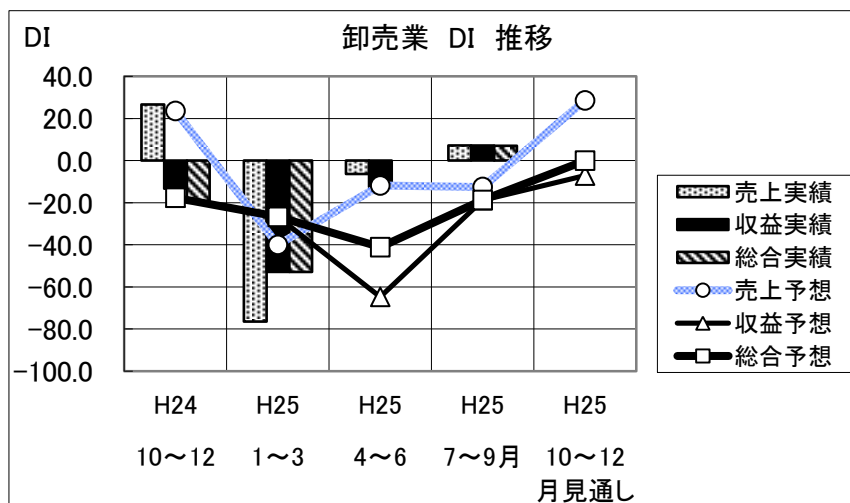
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-7.1	7.2	28.6
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-42.9
③資金繰り	-14.3	-21.4	0.0
④採算(収益)	-28.6	7.2	-7.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-21.4	-7.1
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	7.1	0.0



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	-15.4	-25.0	-22.2	-22.2	44.5
収益	-30.8	-25.0	-44.4	-33.4	-11.1
総合	-38.4	0.0	-11.1	-11.1	11.1



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	26.6	-76.5	-6.3	7.2	28.6
収益	-13.4	-52.9	-12.5	7.2	-7.1
総合	-20.0	-52.9	0.0	7.1	0.0

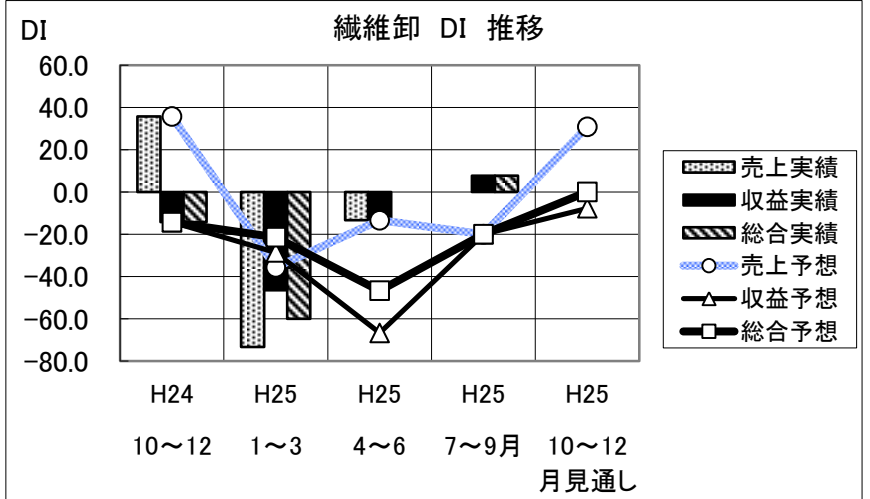
[繊維卸]

<産業資材関連> 円安で原材料価格が高止まり。売値への転嫁も進まず。量的には景気回復の恩恵が多少あるも全体を底上げする程勢いはない。 向こう3カ月の見通し 消費増税の関係もあるが、ここに来て一層先が見えない状況。年内は現状のまま推移する見込みも、年明け以降は先行き不透明。<寝装関連> 猛暑で関連商品が多少動くも、全体的には低調なままである。向こう3カ月の見通し 現状のまま推移する見込みだが、差別化・ブランディング戦略の重要性が増してくる。<インテリア関連> 猛暑のため一部の機能商品(遮熱効果、冷感効果など)は活況。消費増税により住宅着工件数増加も実需はさほどなし。秋冬のシーズンインに向け出荷量は増加傾向だが、新規の追加生産はまだ未発注の状態。引き続き円安傾向で利益率確保が難しい状況。 向こう3カ月の見通し 消費増税に伴う駆け込み需要に期待。より専門店の販売が増える見込み。また消費増税に伴う商品変更や為替変動による不採算商品の入替が進む見込み。インテリア需要期に向けて発注増加が、加工納期が必要で早期発注を依頼をしたい。<衣料関連> 8月中旬より秋冬物に入るが先物の引き取りは少ない、9月は例年並みの出荷。海外生産商品中心の動き。衣料用ジャガード、P下多重ガーゼが好調。反面、先染め、プリント関係は前年割れ。また7月はDビー関係の動きも良かった。 向こう3カ月の見通し 先物の成約率も為替の影響でコストアップを吸収できず採算低下。量的上昇見込めず減益予測。来春夏に向け特定生地で引合いがあるが織機台数に限りがあり機会損失発生の可能性が大。売上は前年並みの見込み。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-15.4	0.0	30.8
②製品・商品在庫	-53.8	-53.8	-46.2
③資金繰り	-15.4	-23.1	0.0
④採算(収益)	-30.8	7.7	-7.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-15.4	-23.1	-7.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-7.7	7.7	0.0



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	35.7	-73.3	-13.4	0.0	30.8
収益	-14.3	-46.6	-13.4	7.7	-7.7
総合	-14.3	-60.0	0.0	7.7	0.0

小売業

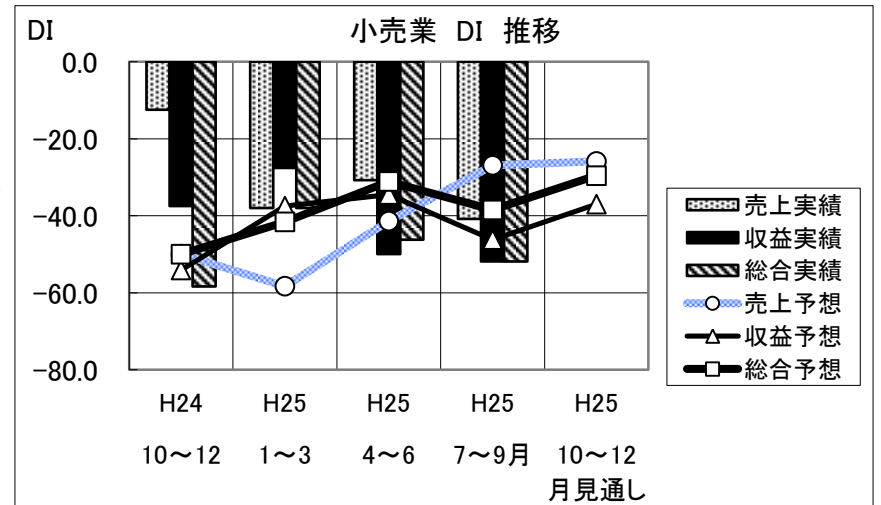
売上DI値は△40.8、前期実績4~6月期(△30.8)に比して10.0ポイントの下降。収益DI値は△51.9、前期実績4~6月期(△50.0)に比して1.9ポイントの下降、総合判断DI値は△51.9、前期実績4~6月期(△46.2)に比して5.7ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向が見られた。 向こう3カ月の見通し 年末の需要期であるが、売上・収益・総合判断とも厳しい見通しである。

消費全体の動きが鈍い。お中元等の進物用は特に動きが鈍かった。 向こう3カ月の見通し 景気回復による消費意欲の増大と年末商戦に期待したい。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-40.8	-25.9
②製品・商品在庫	-18.5	-14.8	-14.8
③資金繰り	-29.6	-29.6	-29.6
④採算(収益)	-70.4	-51.9	-37.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-3.7	-7.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-63.0	-51.9	-29.6



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	-12.5	-38.0	-30.8	-40.8	-25.9
収益	-37.5	-27.6	-50.0	-51.9	-37.0
総合	-58.4	-38.0	-46.2	-51.9	-29.6

[飲食]

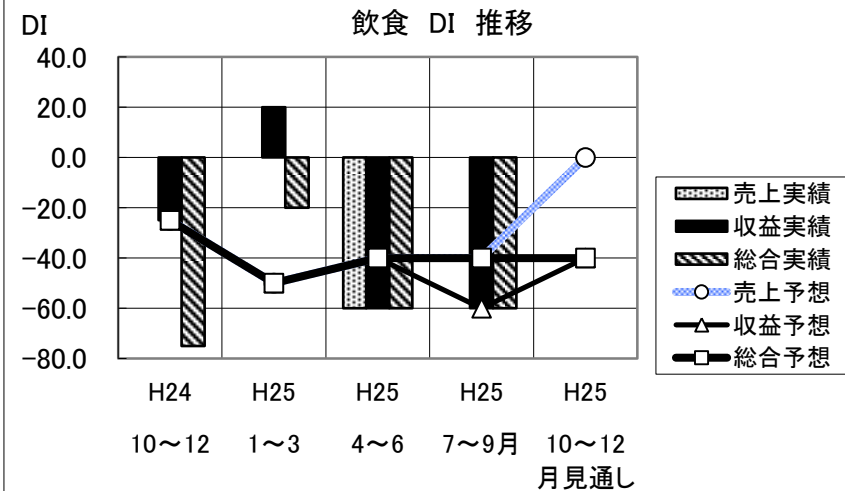
状況にあまり変化はなく、お昼のランチ客は入るが、夜の一般客は少ない。夜のお客様は予約客が大半で、少人数・小グループでの宴会がメインとなっている。数的には多くはないが、大変ありがたいと感じている。「おらがの店自慢」や全国ご当地うどんサミット2013in東近江での「ガマゴリうどん」のグランプリ等の話題性を上手く活用していきたい。向こう3カ月の見通し 10月～12月も同様に、昼のランチ客は多く夜の一般客は少なめの状況は継続すると思う。忘年会についても、予約はまだまだ先の話だが、例年並みの入り込み客は期待している。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-60.0	0.0	0.0
②製品・商品在庫	-20.0	0.0	0.0
③資金繰り	-40.0	-40.0	-20.0
④採算(収益)	-80.0	-60.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-80.0	-60.0	-40.0

飲食 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	0.0	0.0	-60.0	0.0	0.0
収益	-25.0	20.0	-60.0	-60.0	-40.0
総合	-75.0	-20.0	-60.0	-60.0	-40.0

[石油等その他小売]

原油価格は、6月後半は95ドル近辺で推移したが、7月に入るとエジプト情勢緊迫を受けた地政学リスクの高まりや米国の原油在庫減少などを背景に上昇傾向を辿り、同月下旬には108ドル台と高値をつけた。8月中は、エジプト情勢が一段と混迷したことを受けて小幅に値を上げる場面もあったが、米国や中国の経済指標に反応しつつ105ドル近辺で推移している。原油先物市場における投機筋の買い越し額や原油先物市場への資金流入を示す総建玉も、過去最高水準となっている。なお、米量の金融緩和の早期縮小観測は、これまでのところ原油市場への資金流入に大きな影響を与えていない。

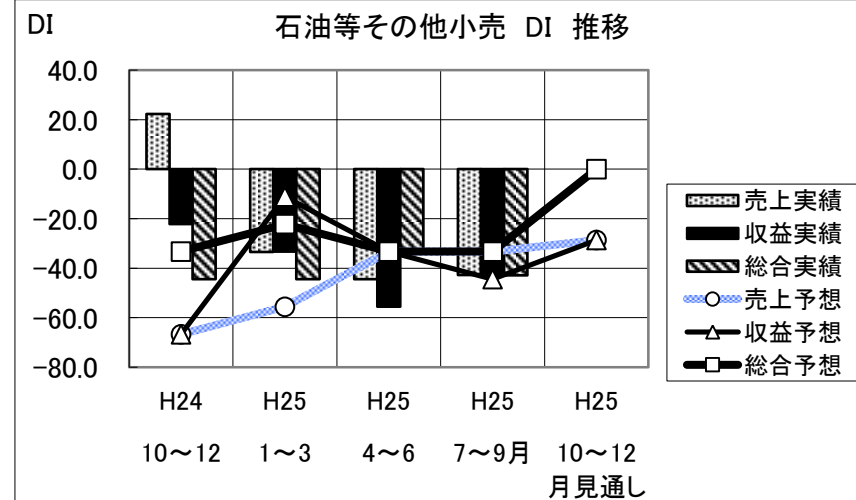
向こう3カ月の見通し エジプトやシリア、イランなど中東・アフリカ諸国の地政学リスクの高まりによる供給懸念が根強い状況が続くとみられ、原油価格は四半期平均で100～105ドル台と高値圏で推移すると見込まれる。ただし、情勢緊迫の影響によりスエズ運河の運航に支障が生じる場合、原油価格は史上最高値(147ドル)を更新するおそれがある。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	-57.1	-42.8	-28.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-14.3
③資金繰り	-14.3	-28.6	-28.6
④採算(収益)	-71.4	-42.9	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-57.1	-42.9	0.0

石油等その他小売 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	22.3	-33.4	-44.4	-42.8	-28.6
収益	-22.2	-33.3	-55.6	-42.9	-28.6
総合	-44.5	-44.5	-33.3	-42.9	0.0

サービス業

売上DI値は△10.0、前期実績4～6月期(△40.0)に比して30.0ポイントの上昇、収益DI値は△30.0、前期実績4～6期(△30.0)に比して横バイ、総合判断DI値は△10.0、前期実績4～6月期(△40.0)に比して30.0ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも上昇したが依然として水面下の状況。

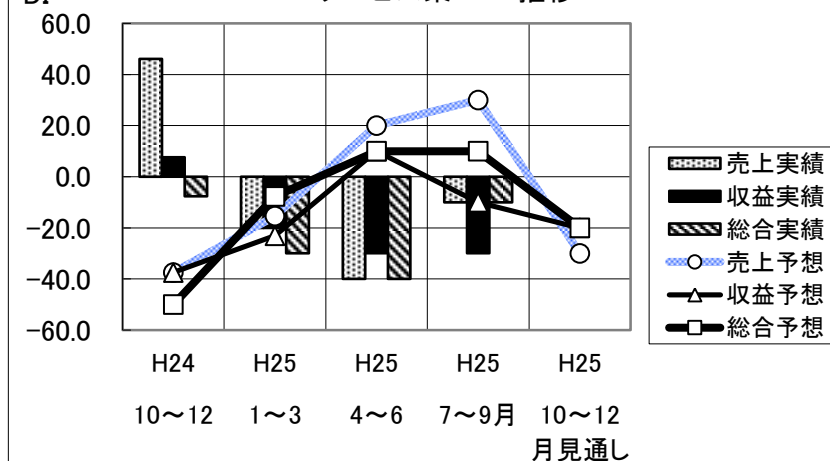
向こう3カ月の見通し 繁忙期の夏を過ぎ、例年落ち込む時期である。売上・収益・総合ともに水面下の状態である。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	-10.0	-30.0
②製品・商品在庫	0.0	-10.0	0.0
③資金繰り	-30.0	-10.0	-20.0
④採算(収益)	-10.0	-30.0	-20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-10.0	0.0	-10.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-10.0	-10.0	-20.0

サービス業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	46.1	-20.0	-40.0	-10.0	-30.0
収益	7.7	-20.0	-30.0	-30.0	-20.0
総合	-7.7	-30.0	-40.0	-10.0	-20.0

【旅館】

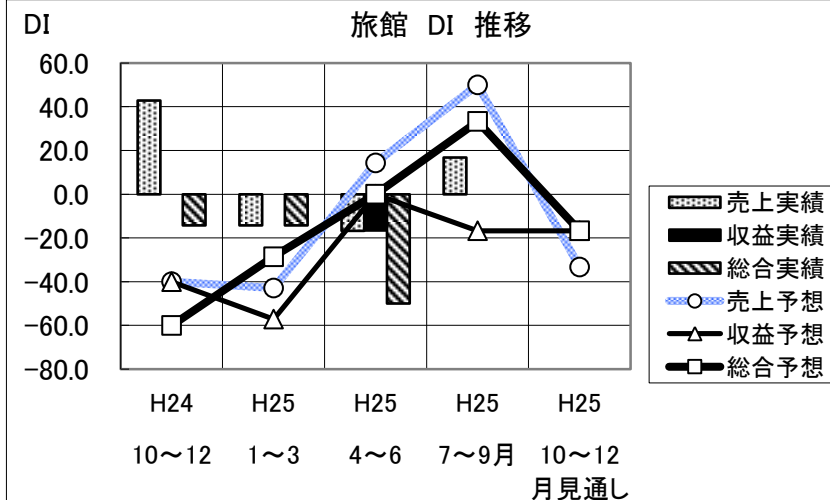
7~8月は宿泊者数で前年対比100%を越える施設が多く蒲郡全体で良かった。天候に恵まれたこと、ラグナシアのプール・ジブリ効果等が要因と考えられる。また、景気回復ムードが旅行を後押しした事も要因。伊勢神宮の式年遷宮の恩恵もあった。9月は例年閑散期であるが前年並みを確保。しかし宿泊者数増加が売上と比例せず、景気への期待感はあるもまだ厳しい状況。また「第3回全国ご当地うどんサミット2013in東近江」における「ガマゴリうどん」グランプリも魅力の一つである。向こう3カ月の見通し 3年目を迎えるオンパクには最大限の期待。宿泊客への直接的な増加はまだ先だが、継続事業として毎年バージョンアップしたい。プリンセス御膳は5年目の取組でアカザエビの浸透は進んだが、売りにできるかどうかは企業努力が必要。伊勢海老との比較でなく「アカザエビ」がオンリーワンの存在となりメジャーになるよう協力していきたい。他の地魚等と組合せ、蒲郡の名産品にしていきたい。また、アワビの陸上養殖にも期待。B-1グランプリ用の宿泊客確保にも専用プランをつくって進めたい。また、トヨタグループの忘新年会については、例年より動きが鈍いが引き続き営業活動を続けたい(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7月～9月 に比べて	前期比 平成25年4月～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10月～12月 の見通し
①生産額・売上額	66.6	16.7	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	-16.7	0.0
③資金繰り	-16.6	16.7	-33.3
④採算(収益)	33.3	0.0	-16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.6	0.0	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-16.7

旅館 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	10~12月	H25.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見通し
売上	42.8	-14.3	-16.7	16.7	-33.3
収益	0.0	0.0	-16.6	0.0	-16.7
総合	-14.3	-14.3	-50.0	0.0	-16.7

運輸通信業

売上DI値は△33.3、前期実績4～6月期(△40.0)に比して6.7ポイントの上昇、収益DI値は△16.6、前期実績4～6月期(0.0)に比して16.6ポイントの下降、総合判断DI値は△16.6、前期実績4～6月期(20.0)に比して36.6ポイントの下降と、売上・収益・総合ともに悪化傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも横バイも全て水面下の厳しい状況である。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7～9月 に比べて	前期比 平成25年4～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10～12月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-33.3	-33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	16.7	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-16.6	-16.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	-16.7	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-16.6	-16.7

[旅客・貨物輸送・水運]

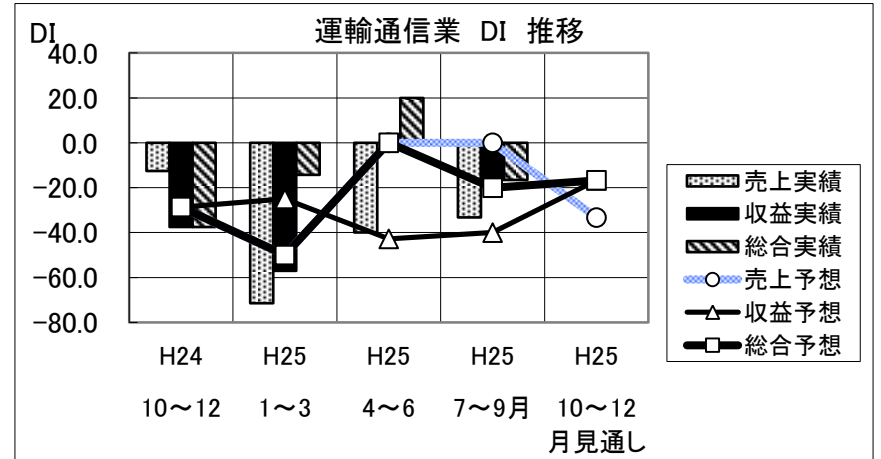
<貨物輸送> 三菱自動車の完成車輸出はアウトランダーのプラグインハイブリッドの欧州輸出が始まり、9月は期末でもあり堅調であった。海上コンテナ作業、木材(合板)の輸入は概ね順調。向こう3カ月の見通し 向こう3カ月は完成車輸出台数は現状のまま推移。その他海上コンテナ作業、輸入も現状維持の見込み。

<バス業界関係> 夏季休暇のシーズンで比較的堅調であったが安近短の傾向は変わらず。日帰りが中心で、宿泊もお値打ちプランは良好。伊勢神宮の式年遷宮関係の動きは活発であった。向こう3カ月の見通し 夏休み後は例年動きが鈍るが、秋の行楽シーズンに入り個人・団体旅行の動きに期待したい。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

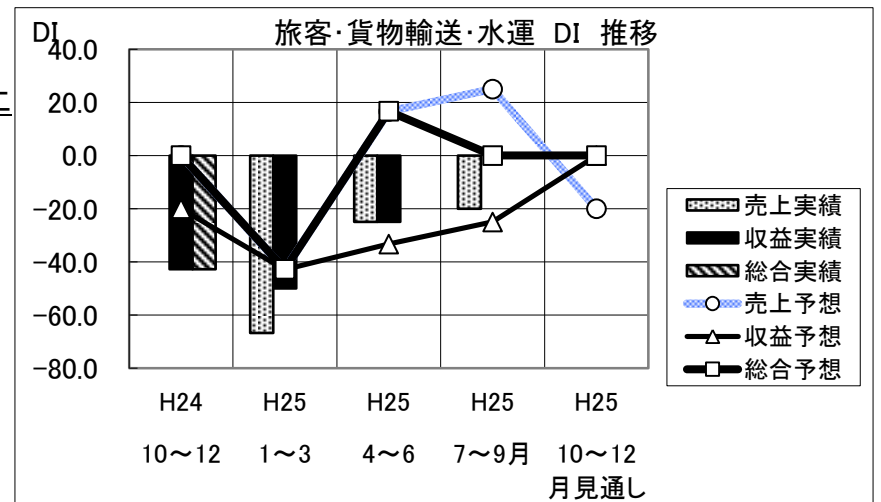
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成24年7～9月 に比べて	前期比 平成25年4～6月 に比べて	来期見通し 平成25年10～12月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	-20.0	-20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	20.0	0.0	0.0
④採算(収益)	20.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-60.0	-20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	-12.5	-71.4	-40.0	-33.3	-33.3
収益	-37.5	-57.1	0.0	-16.6	-16.7
総合	-37.5	-14.3	20.0	-16.6	-16.7

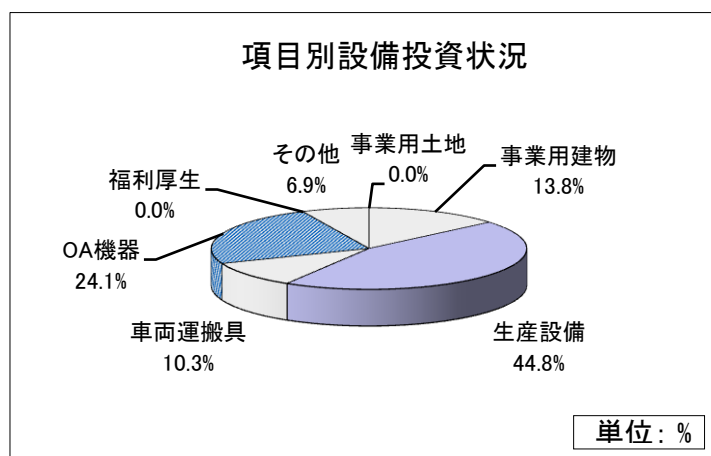
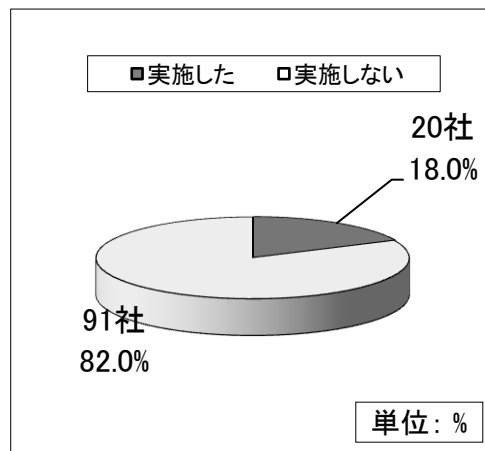


<業況判断DIの推移>

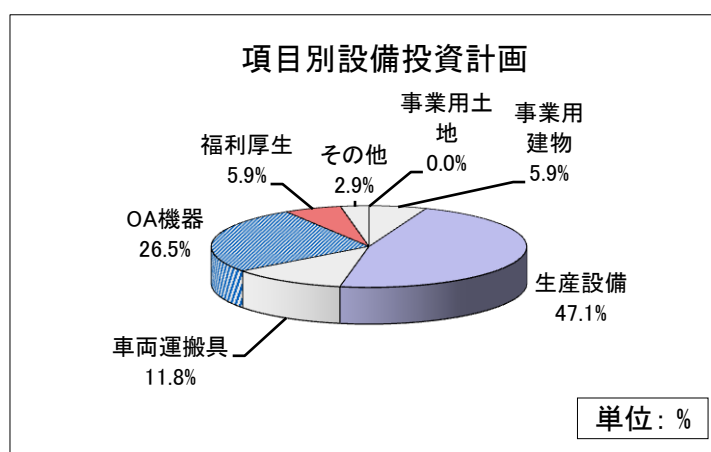
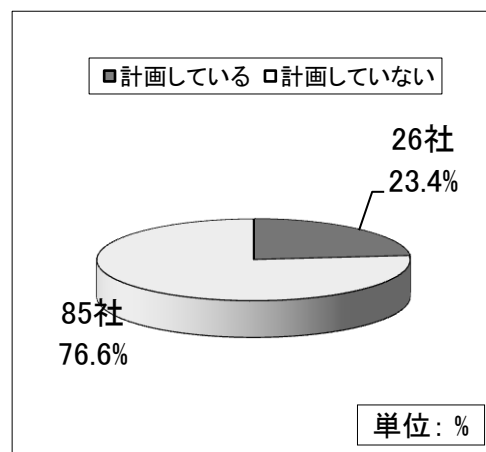
	10～12月	H25.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見通し
売上	0.0	-66.7	-25.0	-20.0	-20.0
収益	-42.8	-50.0	-25.0	0.0	0.0
総合	-42.8	0.0	0.0	0.0	0.0

7. 設備投資動向

＜今期(H25. 7～9月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H25. 10～12月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	0	0
事業用建物	4	2
生産設備	13	16
車両運搬具	3	4
OA機器	7	9
福利厚生	0	2
その他	2	1
計	29	34

(単位: 件)

◎今期(H25.7～9月)、来期(H25.10～12月)設備投資実施、計画動向

(単位: 事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H25. 7～9月)	20	13	0	2	1	3	1
2. 来期 (H25. 10～12月)	26	13	1	3	3	4	2

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 111 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	68 61.3%
2	利幅の縮小	56 50.5%
3	原材料(燃料)高	55 49.5%
4	競争激化	42 37.8%
5	消費者ニーズの変化の対応	22 19.8%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 45 社	原材料(燃料)高 29 社 64.4%	利幅の縮小 27 社 60.0%	売上の停滞・減少 23 社 51.1%
建設業 9 社	利幅の縮小 7 社 77.8%	売上の停滞・減少 6 社 66.7%	競争激化 5 社 55.6%
卸売業 14 社	原材料(燃料)高 10 社 71.4%	売上の停滞・減少 9 社 64.3%	利幅の縮小 7 社 50.0%
小売業 27 社	売上の停滞・減少 22 社 81.5%	競争激化 13 社 48.1%	利幅の縮小 12 社 44.4%
サービス業 10 社	売上の停滞・減少 5 社 50.0%	工場機械店舗の狭小・老朽化 5 社 50.0%	消費者ニーズの変化の対応 5 社 50.0%
運輸通信業 6 社	原材料(燃料)高 4 社 66.7%	売上の停滞・減少 3 社 50.0%	人手不足 2 社 33.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)